

ハルザキヤマガラシ

その他の総合対策外来種

越年草～短命な多年草。強い繁殖力で河原や荒地、田んぼの畔や畑などで猛烈に増えるため、在来種の生息環境を奪います。日本の侵略的外来種ワースト100に選ばれています。



切れ込みのある濃い緑色の葉がつきます。



菜の花によく似た花をつけます。ただし全体的に菜の花より小さいです

種子生産能力が高く、1株から10万個以上の種子が作られることもあります。そのため、一度種がこぼれると、抜き取っても何度も発芽を繰り返します。根気強く取り続けることと、花が咲く前に対処することが大切です。

アメリカオニアザミ

その他の総合対策外来種

高さ100～150cmくらいになる2年草。鋭い棘と強い繁殖力を持ち、在来植物を駆逐したり、人や動物にケガを負わせることがあります。



花を拡大



冬から早春の姿(ロゼット)。株が小さく、棘も柔らかいので、この時期の抜き取りが最も効率的です。



1年目から花を咲かせるため、見つけ次第駆除します。2年目の株は2mを超えることもあります。

冬から春のロゼットの姿なら軍手などの手袋で抜くことができます。しかし夏場の大株は棘が固く大きいため抜き取りが大変困難です。作業時は皮の手袋を着用するなど、安全対策を万全に行いましょう。タンポポのような綿毛をつけて広範囲に種を飛ばすため、花を咲かせないことが重要です。

ハリエンジュ

産業管理外来種

高さ25mほどになる落葉高木。河原や河畔林などで生育し、高い成長力で高木になるため、日陰を作り他の在来植物の生長を阻害します。別名ニセアカシア。



幹に棘がありますので、駆除の際にはケガをしないように革の手袋などを着用しましょう



5月頃に白い花を大量に咲かせます。養蜂農家にとっては大切な蜜源になっています

成長速度が早く数年で高木になります。見つけ次第駆除することが大切です。地下で伸びた根の先からも萌芽しますので、ある程度の大きさの木を伐採した場合は、切り株のまわりのひこばえだけでなく、周辺から生える木にも注意が必要です。

ニワウルシ

重点対策外来種

高さ10~25m位になる落葉高木。非常に速い成長速度と刈り取られても根から再生する生命力を持ち、瞬く間に大きくなり日陰を作り在来植物の生長を阻害します。河川敷、道路脇、畑などどこでもよく育ちます。



4月に発芽したばかりの株。小さいため、この時期の抜き取りが最も効率的です。

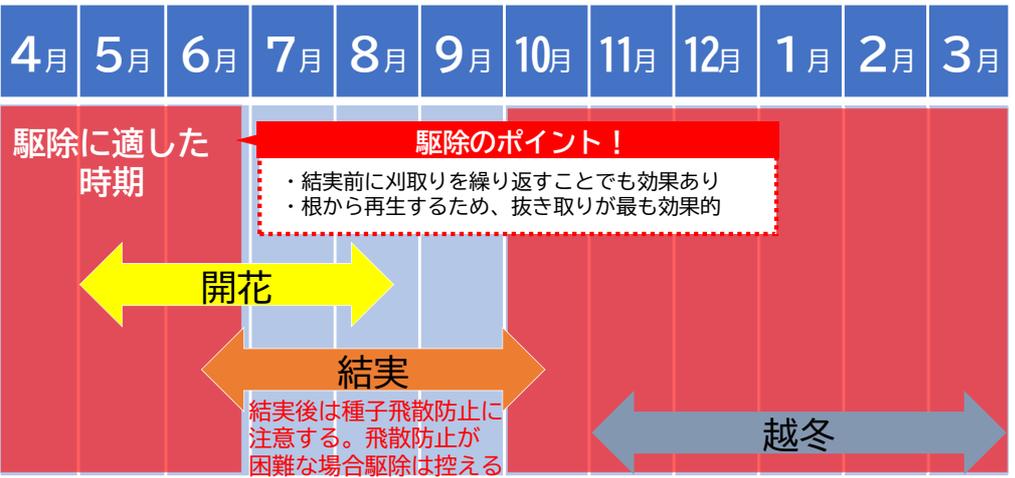


2、3年で2mを超えるほど大きくなります。

2年目以降は木になるため、抜き取り不可能になります。まずは小さなうちに若芽を抜くことが大切です。木になったものは切り倒した後に何度も生えてくるひこばえを刈取りする必要があります。風に舞う種を付け、広範囲に種を飛ばします。種を付けさせないことも重要です。

ヘラオオバコ

様々な環境で生育できる多年草。葉はすべて根生で短い波状の鋸葉があります。どのような環境でもよく育つため、元々その場にあった在来植物を圧迫します。



葉面には無毛のものから、まばらな毛があるものがあります。



花茎は高さ70cmほどの高さになるものもあります。



ビロードモウズイカ

工事後の裸地や荒地などに先駆植物として生育することが多い2年草。道路脇などにもよく生育しており、在来種と競合して減少させることがあります。



冬から早春の姿。株が小さいため、この時期の抜き取りが最も効率的です。



1年目は小さな姿ですが、2年目は大きくなり草丈2mを超えることもあります。

種子の発芽保持能力が高く、100年前の種子から発芽した記録があります。そのため、抜き取っても何度も埋土種子から発芽が繰り返されます。

ナヨクサフジ

産業管理外来種

つる性の一年草。150~200cmほどに伸びて周辺の植物に覆いかぶさります。河原周辺や、田んぼ、畑などで大繁殖し、在来種を駆逐することがあります。



左がナヨクサフジ、上が在来種のクサフジ。クサフジより紫色の濃い花を付けます。

発芽後一気に草丈が伸びて周辺植物に覆いかぶさります。大きくなった株は蔓が草刈り機にからまったりして駆除が大変なので、株が小さいうちに早めの駆除を行うことが大切です。

ナガミヒナゲシ

高さ10~60cm位になる1年草。強い繁殖力を持ち、多くの種を付けます。群落を作ることがあり、アレロパシーもあるため在来植物と競合して駆逐してしまいます。



芥子坊主を拡大



1株から多くの種をこぼし、翌年には群落を作ることもあります。

数センチレベルの小さな株でも蕾がつきます。

1つの花から1500粒ほどの種子ができます。1株で100個以上の花を咲かす株もありますので、花が種子に代わる前の早めの駆除が大切です。

秋に発芽して冬越するものと、早春に発芽する2種類があります。いずれも4月から5月初旬の株が小さいうちの駆除が効果的です。なお、草汁に触れるとかぶれることがあります。必ず手袋をして作業しましょう。

ヨウシュヤマゴボウ

高さ100~200cmとなる多年草。6月~9月に白~ピンク色の花が垂れ下がるように咲きます。茎が紅色を帯びます。秋になると1cm程度の果実をブドウのように実らせます。



発芽して間もない株であれば手で抜き取ることができます。(5月初旬の株)



紫色の実がなります。素手で触ると紫色になります。有毒なので、触った手で口や目に触らないようにしましょう。



ゴボウとついでいますが、根には強い毒があり食べられません。駆除の際もできるだけ素手で触らないよう注意しましょう。

セイタカアワダチソウ 重点対策外来種

高さ50~300cmになる多年草で、河川敷や田畑の土手、河川敷、土の駐車場などで生育する。日本の侵略的外来種ワースト100の一つ。地下茎で増え在来種と競合して減少させます。



種子寿命は短く埋土種子にはなりにくいですが、根茎が長く地上部の駆除だけでは再生してしまいます。

冬場に根を掘り上げたり、生えていた周辺一帯を耕起すると根を死滅させることができるため、数を減らすことが容易にできます。駆除するためには種を落とさせないための刈取りと、冬場の耕起を組み合わせることが大切です。

その他の植物が生育できないくらい密な群落を形成します。

オオブタクサ

重点対策外来種

300cmほどの高さに成長する1年草。多毛で分岐して大きな株になる上、群生するため在来植物の生育を阻害します。桑の葉に似た葉が付きますが、桑と異なり葉の両面がざらついています。



梅雨時期前は株が小さいため容易に抜き取りできます。

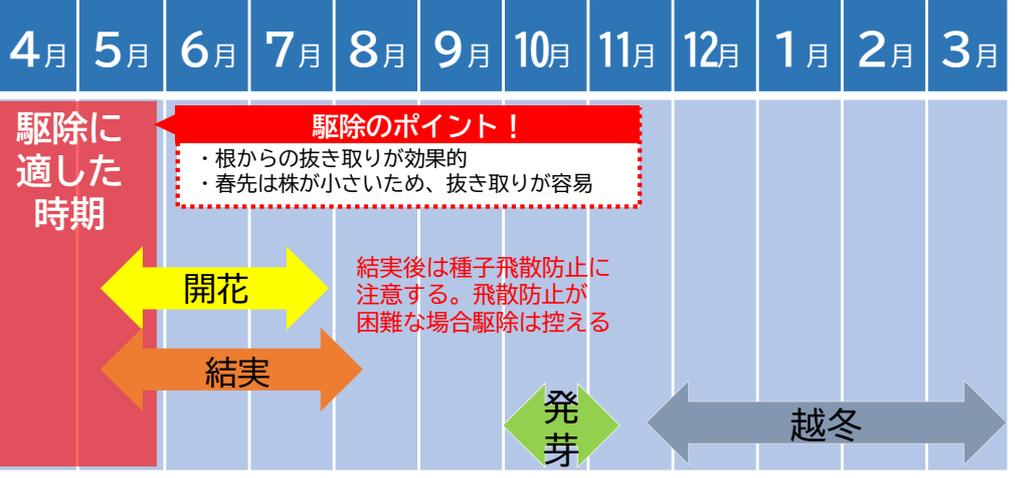


夏場に一気に大きくなります。穂から出る花粉は花粉症の原因にもなります。



バラモンギク (キバナザキバラモンジン)

高さ50～70cmくらいになる2年草。松本市では畑や田などの土手の他、道路脇などにもよく見られます。在来種への影響はまだ不明ですが、近年急速に増加しているため注意したい外来種です。



開花後はタンポポのような綿毛をつけて広範囲に種子を飛ばします。(周辺の紫色の花はナヨクサフジ)



大株になるとたくさんの蕾をつけます。綿毛になる前に早めに抜き取りましょう

近縁種で見た目がそっくりのバラモンジンと呼ばれる植物もあります。花の色が青いため見分けが付きません。松本近郊ではあまり見かけませんが、見つけたら駆除をお願いします。